

①設計の理念と考え

慰霊のヴォイドをつくる

「慰霊」とは我が国独特の概念であり、人類史上最大級の、未曾有の災害に遭った仙台であればこそ、その公共空間は「慰霊」の空間を中心に据えるべきであると考えます。ただし、その空間はあくまで空間であるべきで、慰霊碑のようなモニュメントをつくるべきではないと考えます。

この建築では中心に大きなヴォイドを抱き、大ホールも小ホールも、災害文化拠点施設あらゆる機能がヴォイドに接続し、人々はヴォイドからそれぞれの目的の場所にアクセスします。様々な空間がこのヴォイドに接続しているため、他の活動が見えることになり、遭遇可能性を高めます。

②設計を進めるうえで留意すること

方針1 建築家がイニシアティブを発揮する

建築家がイニシアティブを発揮しながら関係者の想像力や能動性を喚起します。意見を出してもらってから空間をイメージするのではなく、空間のイメージを出しながら意見を引き出していくべきであると考えます。固定的な意見の平均をとるのではなく、意見の特徴を表現として取り込んでいくことが大事であると考えます。10mグリッドの構造計画とすることで機能の入れ替えを柔軟に対応可能とします。

方針2 プロセスをデザインする

デザインのプロセスがあるのではなく、一般的な公共施設の設計においては、多くの要望が集まるものの、プランとの結びつきに関しては設計者に一任され不透明なままとなりますが、ここでは課題を一つ一つ解決しかたちにする漸進的なプロセスの導入により、関係者を巻き込みつつ着実に前進するプロセスをデザインします。

動線計画の考え方

- 各区分ごとに専用の縦動線を配置し、動線が交錯しないようにします
- 各区分は防火区分と一致させ、火災時の避難が円滑に進むようにします
- 階層ごとに主要な利用者を区分し、明快な動線計画とします

外部動線計画の考え方

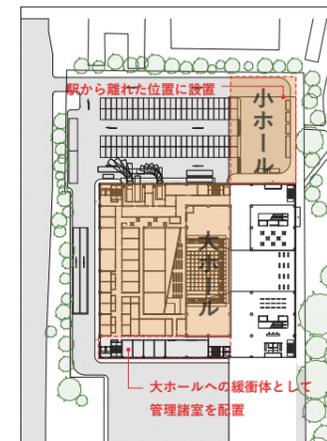
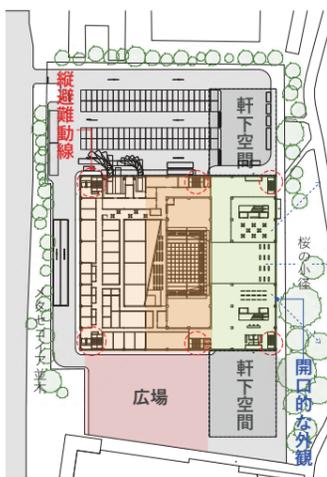
- 桜の小径周辺の既存の動線を損なわないようにします
- 駅や駐車場から翼部の下を通る動線とし、雨の日も安全に通行できる計画とします
- エントランスは三周をガラス張りとし、開放的で入りやすい外観とします

外構計画・ランドスケープの考え方

- 南東部に屋外広場を計画し、メタセコイア並木とのレベル差を解消する緩勾配の広場を計画します
- キッチンカー等の駐車可能な外構計画とし、駅とホールの連続的なにぎわいの創出に寄与します
- 現況の駐車場の配置を継承し、既存の並木に与える影響を抑えた計画とします

音響計画の考え方

- 大ホール・小ホールは地下鉄から隔離した配置計画とします。
- 小ホールは防振構造・二重遮音用仕切とします。

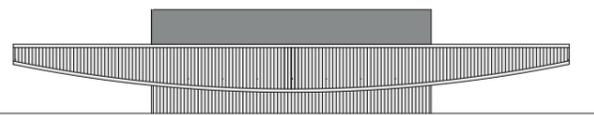
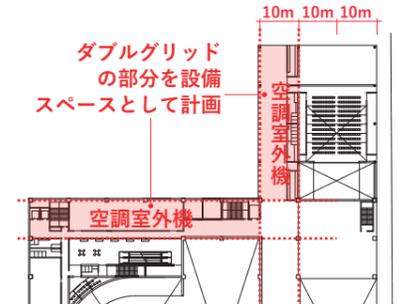
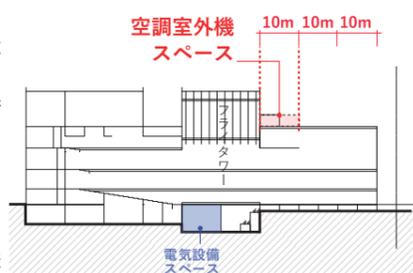


設備計画の考え方

- 各区分の空調設備は独立させます
- 電気設備は地下に集約します
- 空調室外機は大ホール屋上に集約します
- ダブルグリッドの部分を設備ルートとし天井高5mのうち1mを構造・1mをダクトルートとします
- 4箇所シャフトを設置し各階と地下(電気設備等)・屋上(室外機等)をつなぎます

立面の考え方

- 杜に浮かぶ「三日月型の立面」をつくります。
- 景観計画・広瀬川の清流を守る条例に配慮して、フライタワーの配置中央部として圧迫感を抑えます。



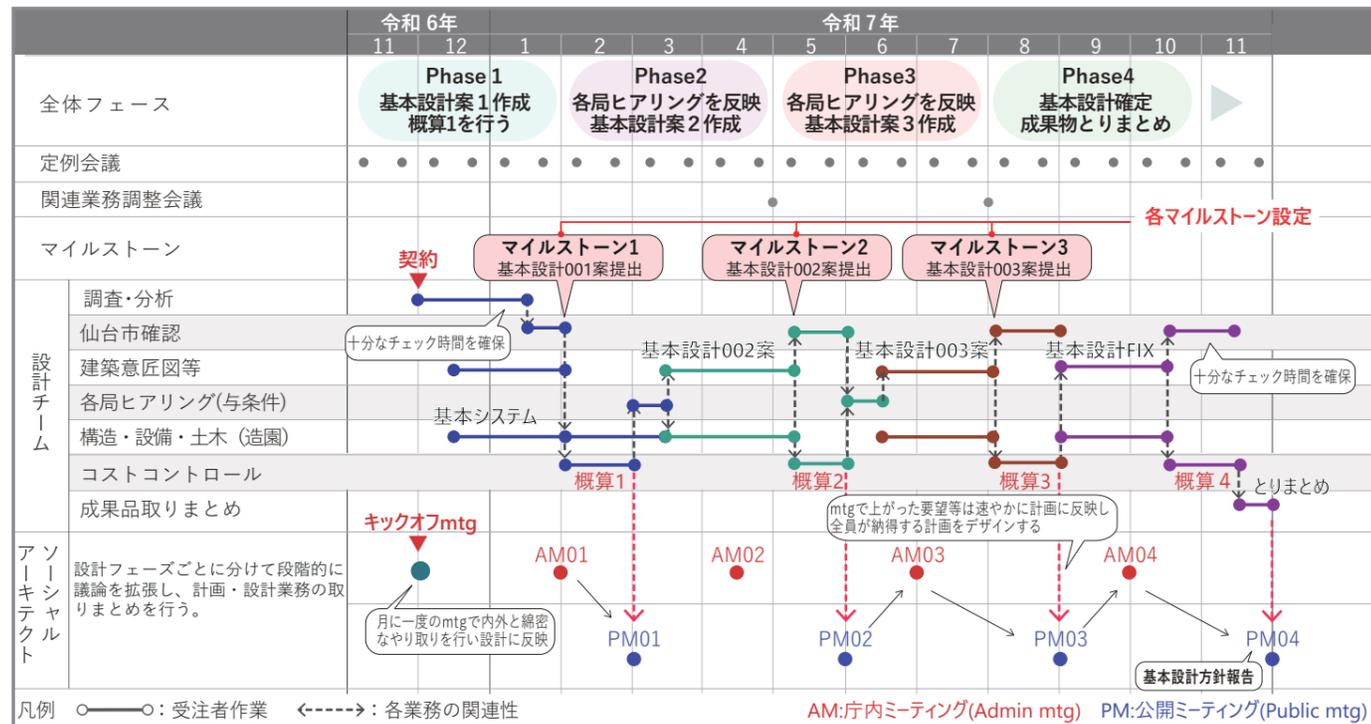
立面イメージ図

面積表			
建築面積	9600 m ²		
床面積	31600 m ²		
B1	1600 m ²	関係者用駐車場	1600 m ²
1F	7200 m ²		
		広場	交流ロビーゾーン
		ホール	大ホール舞台
			楽屋・搬入他
		運営	施設管理運営諸室等
			機械室他
2F	5400 m ²		
		ホール	大ホール客席
			ホワイエ・諸室他
			運営他
		その他	ロビー
			他
3F	6450 m ²		
		ホール	大ホール客席
			ホワイエ・諸室他
			小ホール舞台
			楽屋他
		文化芸術創造支援・活用	創作アトリエ等
		災害文化創造支援・発信	ゲートウェイ他
		運営	施設管理運営諸室等
			他
4F	6550 m ²		
		ホール	大ホール客席
			ホワイエ・諸室他
			小ホール客席
			小ホールホワイエ楽屋他
		文化芸術創造支援・活用	WSスタジオ等
		災害文化創造支援・発信	展示室
		運営	施設管理運営諸室等
			他
5F	4400 m ²		
		文化芸術創造支援・活用	リハーサル等
		広場	クワイエットルーム
		運営	施設管理運営諸室等
			他

③コストの縮減に関する提案

シンプルで力強く、明快な計画

外形はなるべく単純な箱型とすること、30mの高さ制限のなかでできるだけ効率よく積層し、地下の施工床面積を減らすこと、構造は集約し免震層の面積を絞ることなどの配慮をしています。そのほか、設計期間中のコストコントロールに関しては以下の点に配慮します。



方針1 品質・コストのバランスを取りながら、工程をフェーズ1～4の4段階に分けて管理

市民意見や議会の意見、庁内意見を反映しつつ、品質とコストのバランスを取りながら手戻りなく業務を行います。

方針2 概算の繰返しによる手戻り防止

工程遅延につながる最大の原因である予算オーバーを防ぐため、実績に基づく「工種別予算の割り振り」と「ミニマムコスト+付加コスト」による積み上げとの比較検討を各段階で行い、費用対効果を踏まえて性能とコストの双方を管理します。

方針3 段階的な進捗管理

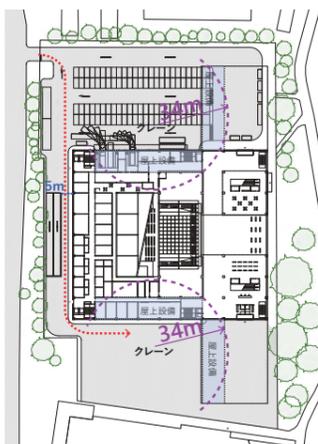
年4回の議会日程を踏まえ、設計期間をフェーズ1～4の4段階に分けて進捗を管理します。フェーズごとに目的を明確にして成果を積み上げ、ワークショップ等における市民意見の取りまとめを含めて議会に中間報告できるようにします。

④将来の大規模改修を想定した設計配慮

施設マネジメントの建築計画

方針1 屋根・外装工事のための足場が組みやすい建築配置計画

工事車両の進入を配慮し、外周に5mの車路を確保し、工事時の作業や将来の改修の際の足場の設置を容易にします。2箇所の駐車場・広場はクレーンの設置場所にもなります。



「仙台市公共施設総合マネジメントプラン」の考え方にならない、80年を計画保全年数、40年で大規模全面改修、20年ごとに建築(屋根・外装)・電気(防災)・機械(空調・ポンプ)類の改修を行うことを見据え、以下の配慮を行います。

方針2 電気等の工事のしやすい明快な設備ルート

大ホール外周とウイング部分を設備ルートとし天井高5mのうち1mを構造・1mをダクトルート・空調機械設備・防災設備を集約することにより、設備改修が使用の妨げにならないように配慮します。

方針3 独立性の高い設備配置

空調機械設備は区画を横断しないように配置し、設備改修が使用の妨げにならないように配慮します。また、空調室外機等は屋上に集約することにより、交換・更新がしやすくなるように計画します。

方針4 メンテナンス性の高いPS配置

空調機械設備はなるべく階を横断しないように配置し、PS(給排水)、EPSについては大きな縦シャフトを用意し、設備点検、改修を容易にします。

